

米 シリア 攻撃



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2017年

号外

購読申し込み
0120-13-1231
ホームページ
www.sakigake.jp
携帯サイト
m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、当社ホームページをご覧ください。

化学兵器に対抗ミサイル50発

【ワシントン共同】

米主要メディアは6日夜、複数の米軍当局者の話として、シリア北西部で猛毒のサリンとみられる化学兵器が使用され、多数の死傷者が出た

空爆への対抗措置として、地中海に展開する2隻の軍艦からアサド政権の空軍基地に向け、巡航ミサイルのトマホークを少なくとも50発を発射したと報じた。

これに先立ち、テラーソン米国務長官は化学兵器使用について「アサド政権に責任がある」と断定。「アサド大統領は国民を統治する役割を失うだろう」と述べ、大統領退陣にこだわらないとしてきた従来の方針を転換した。

米政権内や議会で



シリアへの巡航ミサイル発射後に話すトランプ米大統領＝6日、米フロリダ州パームビーチ（AP＝共同）



はシリアへの武力行使に慎重論があったが、強硬路線を取ることでアサド政権の後盾となつているロシアに圧力をかける狙いがある。

トランプ米大統領は5日、アサド政権軍は「多くの一線を越えた」と非難。「シリアとアサド大統領に対する私の考えは大きく変わった」として、アサド氏退陣にこだわらないとの政策を修正する可能性を示唆していた。